



二〇一〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月二・二・三・四・五・六・七・八の日発行

「戦争法案反対」

ちいろば会理事長 大澤星一

去る、8月30日(日)に、全国各地で、今、参議院で審議されている「安全保障関連法案」いわゆる「戦争法案」に反対する集会が開かれた。国会前では12万人が集まり、大阪・扇町公園には2万5千人が集まった。会場となった扇町公園の広場には人が溢れ、大阪で開かれた市民運動でこれほどの人が集まったのを僕は初めて見た。

昨年2014年の7月に「集団的自衛権」が閣議決定され、日本の戦争をする国への道は加速し、今夏は多くの反対や疑義がある中で強引に衆議院で可決されてしまっていて、今である。

戦争という行為は、人間の犯す罪の中で最大のものであり、神の創造に反する最大の罪でもある。またちいろばがその理念としている「ともに生きる社会を創造する」の対極にある。

戦争によって一番犠牲となるのは、社会の端に追いやられた人々だ。ただでさえ社会の端に追いやられている人々が、戦争によって更に犠牲を強いられる。

僕が沖縄で平和ガイドをしていた時、極東最大の空軍基地である嘉手納基地が見える丘で、観光で来ていた内地の人が隣で感心したように言った「ああ、私たちはこれで守られているのね」と。それを聞いて僕は「とんでもない!」と言って説明したことを覚えている。第二次世界大戦での沖縄戦で沖縄の人々が知ったのは、「軍隊は人を守るためではなく、国を守るためのものだった」ということだった。そのため、多くの住民が犠牲となり、命を失った。ヒュー・G・ギャラガーは、

その著書『ナチスドイツと障害者「安楽死」計画』の中で、ナチスドイツが国策として「生きるに値しない」として障がいを持った人々を殺したことを記している。また米軍で有事の際に、真っ先に送り込まれる危険な海兵隊は、その多くが貧困層出身であると、キング牧師はベトナム戦争に反対した。

このように戦争は命を奪い・奪わせ・奪われ、差別を助長し、貧困を生み出し、弱い立場の者を有無を言わず犠牲とする。国家の大義の前にそんなことは大きな問題ではないと言わんばかりに。

沖縄の辺野古で船長として海保のお兄さんや防衛施設局と対峙していた時、僕は自分が絶対平和主義ではないと知った。でも、言葉や対話が武力を超えるほどの力をもっていることも知った。平和を作り出すのは、武力ではなく、言葉だ。そのことを私たちは今示さなければと強く思う。

日本が本当に進むべき道は

ちいろば生活支援センター事業管理者 佐藤 滋生

ちいろばだより203号「希望をもてる社会へ」で、非正規でなく安心して生活できる正規労働者を増やしその結果社会保険を納める人を増やさないと、長期的には国内消費と社会保険料収入の減により生活保護費の支出増になる。そして施策が成功するかどうかは現場で動く人をどれだけ充てるかで決まると書きました。

ただ私は正規労働者を増やし社会保険料収入を増やせば全てが上手くいく解決するとは思っていませんが、財政が厳しい行政で新しい事業を実施しようとする、どうしても効果が出る前から固定費になる人件費が削られやすい現状をみてきました。

その中で昔と違い格差社会が大きくクローズアップされている今、国では非課税贈与の拡充など目先の経済対策や消費税の増税に伴う法人税の減税などの競争力を促進させるための施策が目につくと思つています。競争力の促進により経済が発展し、その結果障害者など弱者への支援が充実するのなら良いのですが、一部の人たちだけが果実をもらう、庶民は無縁という状況にならないか心配です。

そして非課税贈与の拡充では、両親や祖父母が金持ちなら、そのお金で塾や授業料が高い私立学校に行けます。一方親が金持ちでない子どもたちは、大学に通うため有利子の奨学金を借り、親も教育ローンを借りているという話を聞きます。ひとり親世帯では子どもの貧困率が50%を超えと言われる日本で、結局は金持ち優遇、子どもの貧困解消でなく貧困の固定化に繋がる施策だと思つています。

少し前新聞に4年間毎月奨学金を10万円借りると返済総額が646万円になるという記事が載っていました。4年間で480万円を借りると166万円の利息がつき、20年間毎月3万円弱を返していけないといけないうことで、私は「奨学金の名を借りたサラ金か」と叫んでしまいました。借りたら当然責任を持って返済しないといけません、奨学金という名前をつけるなら貸与であっても無利息にすることはできないのでしょうか。

日本の個人金融資産額は1,700兆円を超えたとされていますが、金持ちでなくても少しは預金があり銀行に預けている人で元金を保証してくれるなら無利息でもいい、ほんの少しの利息しか貰えないなら共助の思いから無利息で貸してくれる人はいるのではないのでしょうか。国はそのような施策を考えることはできないのでしょうか。

少し話はかわりますが、私は5月10日川西町であった「戦場で生きる子供たち～その姿にふれて～」という集会に参加しました。その中の講演で西谷文和さんから、今後自衛隊で任務中に戦死者が出て入隊の志願者が減った場合にそなえ、自衛隊に入ると借りた奨学金をチャラにすることを国は考えているという話がありました。私は以前読んだ「貧困大国アメリカ(岩波新書)」という本で、現在アメリカでは隊員の確保ですでに同じようなことを行っていることが書かれていましたので、先々日本でも起こりうると思つていましたが、他の方から実際そのような話を聴き日本もここまで来たかという思いになりました。ただ先ほどの講演の話の元は、文科省の有識者会議で「卒業後上手く就職できず奨学金の返済に苦しんでいる人に、自衛隊で1・2年インターンシップをすれば就職しやすくなる。防衛省も考えてもいいと言っている。」という発言だったらしいのですが、奨学金という名のローンに苦しんでいる人が、自衛隊に入隊すればローンをチャラにするとされたら、自らの信条とは関係なく心が動いてしまうと思つています。

上記の本の146頁に「かつて「市場原理」の導入は、バラ色の未来を運んでくるかのようにうたわれた。・・・だが、政府が国際競争力を上げようとして規制緩和や法人税の引下げで大企業を優遇し、その分社会保障費を削減することによって帳尻を合わせようとした結果、中間層は消滅し、貧困層は「勝ち組」の利益を拡大するシステムの中にしっかりと組み込まれてしまった。」と書かれています。

私は日本が新自由主義へ突き進むアメリカの後を追っているように思えてなりません。

知的障害をもつ人に対する『合理的配慮』について考えてみよう！⑦

ちいろば園 奥田 陽子

ちいろば園では社会参加を目的とする作業活動のひとつとしてパンの製造、販売を行なっています。今年(ことし)の6月からは三郷町文化センターの前でも週に2度販売をさせていただいています。

A子さん 「いらっしやいませ」

お客さん 「これとこれ、ちょうだい」

A子さん (電卓の数字を見せて…) 「△△円です！」

「おつりは、ここからとって下さい！」

お客さん 「あ、ここから自分でとるのね??そしたら、▽円もらいますね。」

A子さん 「はい、ありがとうございました！」

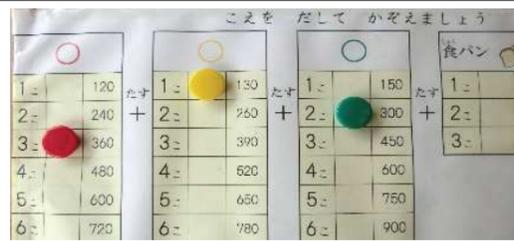
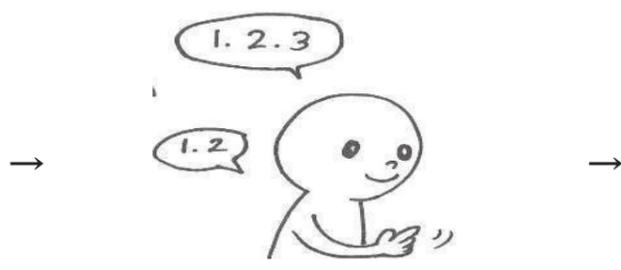
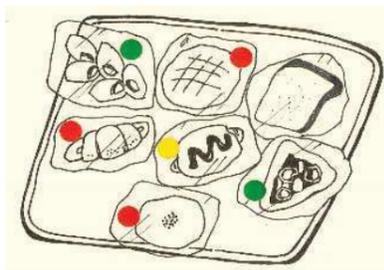
通常は、お買い上げ金額を計算してお金を受け取り、お釣りが必要ならお渡しするという流れですが、知的障害をもつ人の中には計算を苦手とする人もいます。お金の受け渡し場面においては、万札での支払いで桁数の多い計算になることもあれば、同じ100円であっても100円玉ひとつの場合と複数の金種が混ざっている場合があるなど、非常に多様で複雑です。そのため、販売先ではお客さんご自身にお釣金の計算をお願いしています。このスタイルで販売を始めた時は当然お客さんから、「え?!自分でとるの?!」と驚きの声が多かったのですが、継続する中で、「あ、せやせや、ここは自分で計算して取るんやったね。」という声が聞こえるようになりました。セルフレジのようなそうでないような、ちょっとだけセルフレジみたいな…そんなスタイルにお客さんが徐々に慣れてきて下さったように感じます。



お買い上げ頂いた商品の合計金額については、利用者のみなさんが電卓を使って計算をしています。しかし、パンの値段が120円、130円、150円と一律ではないため計算は大変複雑です。そこで少しでも単純な状態にするためこんな工夫をしています。

値段別に色の異なるシールを貼る → 色ごとにいくつあるか数える →

計算ボードにマグネットを置き、横の数字を足していく



こうするうち、初めは恥ずかしそうにしていたA子さんも、「△△円です！」の声がだんだん大きく出るようになってきました。知的障害をもつ人に対して周囲の者が、わからない、できない存在だと決めつけ、保護の対象として捉え、経験を重ねるチャンスを奪ってしまうことは多々あります。「販売では、常に支援者がいないと無理だ」「計算は難しいから支援者の仕事だ」と何となくそう感じてしまうのは、まさにその決めつけによるものです。2016年4月からの障害者差別解消法施行を前に『合理的配慮』とは何かを考えたとき、私たちの視点を変え、工夫を凝らし、またそれを発信する。そのことの積み重ねが大切だと改めて感じています。

「共に生きる」とは、「誰もが主役で生きる」ことをいうのでしょうか。そのために自分のすべきことは何か、みんなで考えて作りだしていきましょう。

園芸部門の取り組みについて

ちいろば園 辰己浩規

まず最初に、7月下旬～8月上旬にかけて開催されたブルーベリー狩り体験が無事終了した事を報告致します。今年もたくさんの方に来ていただきました(大人34人、子供41人、計75人)。ご来園下さった皆様ありがとうございました。

さて、園芸部門といえばブルーベリーなのですが、今年も甘くて大きい実がたくさんになりました。猛暑の中、雨の日も、また上記に報告したブルーベリー狩り体験でもたくさんの方に来ていただきこの夏も皆で必死で収穫してまいりました。おかげで今年も100kg以上収穫する事ができたのですが・・・。実は収穫が全然追いついていません。本当はもっと収穫できるのですが人手が足りずたくさんの実が収穫されずに落ちてしまっています。

皆で1年間かけて育てたのに・・・もったいない!

そこで今《ブルーベリーの木オーナー制》という取り組みを検討しています。内容はまだ何も決まっていないのですが、簡単に言うとブルーベリーの木(3～5本)のオーナーになってもらい夏、オーナーの方が収穫を楽しんでいただくという事です。管理は園芸部門でおこないます。



お落ちたブルーベリーの实

詳細は決まり次第ちいろばだよりで報告したいと思います。

～「ネパール大地震緊急募金」へのご協力ありがとうございました～

募金のご報告とお礼

多くの皆様から、被災者の方々への募金をお寄せいただきまして誠にありがとうございました。

募金額：52,467円

お預かりした募金はワーカビリティ・インターナショナル・ジャパン(WIJ)を通じて被災地の皆様へお届け致しました。

被災地の一日も早い復興をお祈りしますとともに、ご協力いただきました皆さまに心より厚くお礼申し上げます。

かいしょくいん ちいろば会職員リレー エッセー



しえん ぎもん かん こと
～支援をしていて疑問を感じる事～

ちいろば園 宮本 道

わたし しょうがい も ひと せいかつ ぎもん おも しえん はじ おも
私は、障害を持つ人との生活は、「疑問に思うこと」が支援の始まりだと思っています。

「あれ？」なんか変…。

「なんで、これが気になるん？」。

「何がしたいの？」

などなど、ちいろば園の毎日は疑問に思うことの連続です。

しょうがい ひと たしゃ じぶん おも つた きょくたん になて ふかい おも
障害をもつ人は、他者に自分の思いを伝えるのが極端に苦手です。不快に思ってもぎりぎり
まで我慢して、突然爆発してしまうということも少なくありません。

ちょっとしたことが（本人にとってはとても大切なことなのですが…）気になって気になってしか
たなくて、なかなか次の行動にうつることができなかつたりということもたびたびおこります。まっ
たく行動の意味が分からないけど…、後々「あーそうやったんや〜」と、気づくこともしばしばです。

まず、疑問を持ち、答えを見つける為に職員間で情報交換し、支援の仕方を考えます。

わたし しえんしゃ かさ ひとりひとり りようしゃ みな げんじょう はな あ
私たち支援者はモニタリングを重ね、一人一人の利用者の皆さんについての現状を話し合いま
す。不安定になる要素を見つけだし、より安定した環境をつくり、落ち着いて毎日を過ごすことが
できるように考えます。一人の支援者で考えるのではなく、複数の支援者で考えます。そして、
それが個別支援計画となって一人一人の支援に生かされてくるのです。

にんげん ひとり ぜんぜんちが す きら えてふえて きょうみ しょうがい も も
人間は一人ひとり全然違います。好き嫌い、得手不得手、興味があること。それは障害を持つ持た
ないに関わりありません。みんなそれぞれ違うのです。違いを理解して認め合うことと、最初から異質
なものと決めつけるのは真逆なことだと思います。認め合うために違いを理解する。だから、疑問を
感じるのが大切なことだと思います。

ついつい過剰に関わりを求めてしまうことが多い私ですが、うざいと思われながらも私自身が
「支援者」として皆から認めてもらえるように、これからも頑張っていきたいと思っています。

つぎ いそみち わた おも
次は、磯道さんにバトンを渡したいと思います。

よろしくお願ひします。

じかい しえん ばめん なつとく こと
次回からのテーマは「支援の場面で納得できなかった事」です。

ちいろば園 第5回「兄弟姉妹の会」に参加して

竹田 隆之

(ちいろば園利用者 梅野玲子さんの兄)

妹の梅野玲子がお世話になっており、昨年に続き、2回目の参加をさせて頂きました。昨年は、福祉制度やグループホーム・入所施設の説明、成年後見制度の活用方法などの講義に続いて、参加者の意見交換があり、とても勉強になったため、今回も参加させて頂きました。

今回は私を含めて3名の参加と少人数で、講義形式ではなく、まず参加者が現在・今後の気掛かりな点について質問を行い、その後スタッフの方々から1人1人のちいろば園での様子や今後の展望などについて教えて頂きました。

実際に3名の利用者がちいろば園でどのような生活、活動を行っているか、過去・現在を踏まえた上で、各々にとってのこれからの課題をどう考えて頂いているか、その中で将来的にグループホームなどを考える際の留意点などについて、きめ細やかなアドバイスを頂きました。

昨年、講義を聞いた後、家族で今後について話し合いましたが、いざ話し合ってみると具体的な事がなかなか明確にならず、そのため話し合いも続かず、将来への備えもこの1年間で全く進捗せず、少し焦りも感じておりました。

今回のお話では、3人各々の現状を踏まえた上での具体的な言及、アドバイスがあり、とても参考になりました。

一括りにグループホームといっても、一戸建てや2DKタイプだけでなく、ワンルームマンションのようなサテライト型（食事などは共同生活を行い、入浴・睡眠は独立させる事が可能）など様々な選択肢があり、それぞれ利点・欠点があるため、個別の事情に配慮した選択が必要である事が理解できました。

そのようなグループホームを準備するために、十分に検討する場合は1年程度必要であるが、急に両親などが生活を支えることが出来なくなった場合にはショートステイなどを利用しながら最短で2ヶ月弱で何とか形をつくるべくご支援も頂ける、などとても具体的なお話が聞けました。これまでは将来への準備が出来ない中で、取り留めもない不安だけを抱いて参りましたが、少し安心すると共に、これからの1年は今後に向けて家族で十分な話し合いが必要である、と痛感致しました。

次回も是非とも参加させて頂きたく思いました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

兄弟姉妹の会に参加して

グループホーム世話人 井上啓樹

兄弟姉妹の会は2011年より一年に一度夏季に開かれ今回で5回目を迎えます。

前回まではグループホームのことや成年後見制度について学び、本音で話しあい交流を重ねてきました。

職員と兄弟姉妹のみなさんは顔を合わせる機会が少ないため、私たちにとってとても貴重な時間です。みなさんから聞かせていただいたことは、表現方法こそ違いますがどれもその方の人生の重みを垣間見られるもので、お仕事するうえでの原動力となっています。

今回は通常よりも参加人数が少なく兄弟・姉妹のみなさんのそれぞれ考えておられる将来のことや不安を（人数が少ない分だけ）たっぷりと、より踏み込んでお話を聞くことができました。具体的な話も多く私もグループホームの話題では世話人という立場から実情をお伝えさせて頂きました。会が終わると私は参加者のみなさんがご家庭に戻られてどのようなお話をされていたのか、ついつい想像してしまいます。また後日談を教えて頂ければ幸いです。

ピープルファーストの案内について

ちいろば園 北村 翔太

10月31日～11月1日にかけて、ピープルファースト全国大会が神戸で開催されます。今回の大会のテーマは「なかまをふやして助け合おう 被災地をみんなで元に戻そう 差別・虐待のないより住みやすい社会をつくろう。」です。

1日目の全体会では阪神淡路大震災や東日本大震災を経験した当事者からの話があり、夜には交流会があります。2日目は12個あるテーマから興味のあるテーマを選んで話し合います。皆で楽しい大会にしていきましょう。

日にち：10月31日(土) 午後1:00～8:00

ばしょ：(全体会)：神戸ファッションマート 神戸市東灘区向洋町6-9

ばしょ：(交流会)：神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ

神戸市東灘区向洋町中2-13 (六甲アイランド)

日にち：11月1日(日) 9:30～12:30

ばしょ：(分科会)：神戸ファッションマート

ちいろばクリスマスコンサート ～2015～

クリスマスコンサートの日程が 12月12日(土) に決まりましたのでお知らせいたします。詳細は おってちいろばだよりやチラシ等で発表いたしますので今年もどうぞご来園ください。



☆月々 (2015年6月1日～2015年7月31日)

安部ひとみ(6.7)、井戸上聰・侑子(6.7)、大西真規子(6.7)、小澤千恵子(6.7)、小野寺彩子(7)、
 木ノ脇悦郎(6.7)、木村和子(6.7)、篠原範子(6.7)、ト田啓三・昭子(6)、諏訪英子(6～9)、高倉常子(6.7)、
 高谷三郎(6.7)、田中廣子(6.7)、田中伸一・真紀子(6.7)、筒井早苗(7)、塚本智恵子(4～8)、
 中園大三郎(6.7)、中村康子(6.7)、永井雅子(4～7)、永田清子(6)、新居サツキ(6.7)、西浜櫛和(6)、
 畠中康子(6～9)、備後直子(6.7)、福田容子(4～7)、藤山正子(6.7)、
 藤澤信弘・ゆき子(6.7)、藤澤信也(6.7)、本圓喜代美(5～7)、牧村スマ子(6.7)、松藤みどり(6.7)、
 本岡信光・真(6.7)、森山幸子(6.7)、山内敦子(6.7)、樋口さつき(6～8)、中村ここみ(6～8)、
 奥田しずる(6～8)、鈴木りこ(6.7)、森田美和(6.7)、田中涼葉(6.7)、河内はるのすけ(6～8)、
 深澤ゆうすけ(6～8)、石川悠(6.7)、吉兼瑛大(6～8)、高田桜(6.7)、兼平水希(6.7)、
 富田忠一・直美(6.7)、和田泰子(6.7)、米田守(6)、橋本勝寿(6.7)、黒川正通(6.7)、木村朋子(6.7)、
 信田裕香(6.7)、森川佳紀(6.7)、新谷貴雄(6.7)、木下好司(6.7)、小川あゆみ(6.7)、田中謙輔(6.7)、
 阿波宏晃(6.7)、原武史(6.7)、斉藤総一郎(6.7)、井原由夏(6.7)、谷野裕悟(6.7)、石原慎也(6.7)、
 西村周也(6.7)、西田久美子(6.7)、藤原小百合(6.7)、梶原拓馬(6.7)、梅田敬子(6)、辰巳普宣(6.7)、
 梅野玲子(6.7)、藤本千絵(6.7)、長尾良子(6.7)、松本敬子(6.7)、小倉奈々(6.7)、坂本友希(6.7)、
 中森未来(6.7)、竹下由里子(6.7)、濱野由利子(6.7)、吉田陽亮(6.7)、吉村公嘉(6.7)、東岡慎也(6.7)、
 船井裕史(6.7)、大谷龍樹(6.7)、岩本咲人(6.7)、村上智子(6.7)、吉井紗英(6.7)、西村昭彦(6.7)、
 山田援(6.7)、柳瀬弘一(6.7)、吉岡佳菜(6.7)、坂口ゆうすけ(7～9)、辰己真奈美(6.7)、高見良平(6.7)、
 佐野仁美(4)

☆一括 (2015年6月1日～2015年7月31日)

志賀良子・真奈・穰、大前美希子、窪美代子、磯道香織、佐藤滋生、楠本杉子、本田佳子、
 森谷公将・玲子、梶川慶子、足立拓矢・るり、窪田義廣、
 フルハウスの会、奈良県「障害者(児)」解放研究会、大江耕平、奈良人権部落解放研究所、
 後藤弥生、東直輝・千晶、松村園美、井上真理子、矢野雄大、北飯史子、松本健一、本間結子、
 金野圭志、吉川和美、蓮田マチ子、常盤紘子、片桐滋、仲嶋一訓・千佳・駿、元木碧人、
 もちつもたれつ、大石健雄、ライフケア王寺、石渡裕子、金泉年郁、内山繁雄、西村好夫、
 川端邦芳、奥村清美、兼平淑子

以上 敬称は略させていただきます

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月 (一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会 年6回 頒価 50円
 連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14
 TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760
 発行人／ 関西障害者定期刊行物協会
 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F